

【3】

阿波の古代寺院を探ろう

1 生徒用資料解説

国府跡

律令制度下の地方都市，地方行政官庁の所在地。国司が政務をとる官庁の主要建物を国庁または国衙と称した。阿波国府跡推定地については，従来，国府町の大御和神社を中心とした方6町あるいは方8町とする説があった⁽¹⁾。徳島市教育委員会は，1982年から10回に及ぶ発掘調査を行い，国庁跡の発見に努めたが，明確な遺構は検出できず，新たに第16番札所観音寺を中心とする説が唱えられた⁽²⁾。1992年以降，国府跡推定地の西を南北に通過する徳島南環状道路・西環状道路の建設に伴う発掘調査が実施され，観音寺遺跡で国庁に関わると見られる大量の木簡が出土した（観音寺木簡）⁽³⁾。一連の発掘調査の成果から，近年では，国府跡は字観音寺から北の字敷地方面に広がり，国庁跡は字観音寺周辺が，その有力な候補地として考えられるに至っている⁽⁴⁾。

国分寺

741(天平13)年の聖武天皇の詔勅にもとづいて全国に建てられた僧寺のこと。正しくは，金光明四天王護国之寺といい，僧20人を置くこととされた。国司や郡司と連携し，国分尼寺とともに各地の仏教信仰の中心となったが，律令制度の衰退とともに廃絶や移動等の転変を余儀なくされた。阿波国分寺跡は，阿波国府跡推定地の南西約1.5kmにある第15番札所国分寺の境内を中心とした一帯にあったと推定されている。周辺には，東門・北門・西門・坊屋敷・塔ノ本など寺院に関連した地名が残る。境内には，塔ノ本付近から掘り出されたとされる巨大な青石の塔心礎（長さ3.78m,幅1.75m,高さ0.7m）が置かれており，往時には巨大な塔が建っていたものと考えられる。徳島市教育委員会により昭和51年に道路工事に伴う発掘調査，昭和53～55年に寺域確認の発掘調査が実施され，2町（約216m）四方の寺域の中に北門・金堂・中門が南北に並ぶ東大寺式の伽藍配置であったと想定されている。また，出土遺物の年代から，寺は創建の奈良時代から室町時代に至るまで存続していたと考えられている。昭和28年に徳島県史跡に指定されている。

また，境内の桃山様式の庭園は，国の名勝に指定されている。

国分尼寺

国分寺と同じく聖武天皇の詔勅にもとづいて造立された尼寺のこと。正しくは，法華滅罪之寺といい，尼10人を置くこととされた。阿波国分尼寺跡は，阿波国府跡推定地の西約0.7kmの石井町石井字尼寺で確認されている。石井町地福寺境内には，当地の通称「法華寺藪」で出土されたとされる巨大な青石の礎石が置かれている。昭和45年民家建設工事の際に瓦や礎石が出土したことをきっかけに，昭和45～46年に発掘調査が実施され，1町半（約158m）四方と推定される寺域の中で，金堂跡・北門跡・築地跡などが確認された。金堂基壇跡は東西28m，南北18mで凝灰岩切石の地覆石（基壇の外装石）が確認さ

れている。寺は、出土遺物の年代から鎌倉時代まで存続したものと考えられている。全国の国分尼寺跡の中でも、寺域や伽藍配置が判明する数少ない事例として、昭和 48 年に国史跡に指定されている。平成 11～17 年には、史跡整備のための発掘調査が行われ、新たに講堂跡が確認された。現在、史跡公園造成に向けて整備が進められている。

石井廃寺

石井町石井字城ノ内にある。昭和 32 年～34 年に発掘調査され、奈良時代前期の金堂跡・塔跡・西回廊跡が確認された。金堂の東側に塔が建つ、法起寺式の伽藍配置と推定される。金堂跡は、東西約 14 m、南北約 12 m で 28 個の礎石が残存している。塔跡は、一辺約 10 m 四方で塔心礎をはじめ 11 個の礎石が残存している。当地域の有力氏族の氏寺であったと考えられており、昭和 30 年に徳島県史跡に指定されている。塔跡と金堂跡の礎石の並ぶ様子は、現地で見学できる。

史跡

貝塚・古墳・都城跡・城跡・旧宅その他の遺跡で、わが国にとって歴史上または学術上価値が高いものについて、国および地方公共団体が史跡として指定をすることで法律上の保護措置を行ったもの。文化財保護法に基づく国史跡、県条例に基づく県史跡、市町村条例に基づく市町村史跡がある。

名勝

庭園・橋梁・峡谷・海浜・山岳その他の名勝地でわが国にとって芸術上または鑑賞上価値が高いものについて、国および地方公共団体が名勝として指定をすることで法律上の保護措置を行ったもの。

2 参考文献

全体について

- 天羽利夫・岡山真知子『徳島の遺跡散歩』徳島市立図書館 1985
菅原康夫『日本の古代遺跡 37 徳島』保育社 1988
一山典「律令時代の世界」『徳島県の歴史』図説日本の歴史 36 河出書房 1994
藤川智之「古代」『論集徳島県の考古学』徳島考古学論集刊行会 2002

阿波国府跡

- 木下良「国府と条里の関係について」『史林』50-5 1967
『阿波国府跡第 1 次～10 次調査概報 1982 年度～1991 年度』徳島市教育委員会 1983～1992
『観音寺遺跡 I～V』（財）徳島県埋蔵文化財センター 2001～2008
シンポジウム『阿波の国府と国分尼寺』徳島県教育委員会・石井町教育委員会・（財）徳島県埋蔵文化財センター 2006

- 阿波国分寺跡** 天羽利夫・一山典「阿波 国分寺」『新修国分寺の研究 第五卷 北海道』吉川公文館 1987
『徳島市史・第一巻総説編』徳島市 1973
- 阿波国分尼寺跡** 田辺征夫・松永住美 「阿波国分尼寺」『新修国分寺の研究 第五卷 北海道』吉川公文館 1987
『石井町史・上巻』石井町 1991
『阿波国分尼寺跡 I』石井町教育委員会 2007
- 石井廃寺跡** 『石井』徳島県教育委員会 1962 『石井町史・上巻』石井町 1991
- 下浦廃寺** 『石井町史・上巻』石井町 1991
- 合蔵廃寺** 『指定史跡等保存活用事業埋蔵文化財発掘調査報告書 I』徳島県埋蔵文化財センター 2006
『三加茂町史』三加茂町 1973
- 河辺寺跡** 『指定史跡等保存活用事業埋蔵文化財発掘調査報告書 I』徳島県埋蔵文化財センター 2006
- 郡里廃寺** 『立光寺跡の発掘調査』・『阿波・立光寺跡調査概報』徳島県教育委員会 美馬町教育委員会 1968.1969
『美馬町史』美馬町 1989 報告書
『郡里廃寺第3次～8次調査概要報告書』美馬市 2006～2011
- 川島廃寺跡** 『川島町史・上巻』川島町 1979
- 法輪寺跡** 『土成町史・上巻』土成町 1975
- 大唐国寺跡・かんぞう寺跡・金光明寺跡・釈迦堂廃寺** 『板野町史』板野町 1972
- 金剛光寺跡 常楽寺跡** 『徳島市史・第一巻総説編』徳島市 1973
- 土佐泊廃寺** 『鳴門市史・上巻』鳴門市 1971
- 立善寺跡** 『阿南市史・第一巻』阿南市 1987

[写真の出典]

国分寺・国分尼寺 「国分寺・国分尼寺」『ゲンちゃんと学ぼう徳島の歴史舞台より』
徳島県教育委員会 徳島県立埋蔵文化財総合センターオフィシャルサイト

(<http://awakouko.info>) で閲覧できます。

川島廃寺出土鬼瓦・螺髪 吉野川市教育委員会

石井廃寺金堂基壇 『石井』徳島県教育委員会 1962

3 授業の目標

- 1 本県の国分寺と国分尼寺の建立について学習し、仏教を通して中央と地方(徳島)の関係を理解する。
- 2 本県の古代寺院跡の分布について知り、自分たちの身近にある寺院跡について興味と関心を持つ。

4 教材について

[教材選定の理由]

本教材は、中学校社会科歴史的分野の内容(2)古代までの日本、イ律令国家の確立に至るまでの過程、及び、ウ仏教の伝来とその影響についてのうち、天平文化の項の発展的な内容として選定した。

展開例

(1) 展開例

天平文化の項のまとめの後の発展として、本県の国分寺・国分尼寺について、また、県内の古代寺院跡の分布等について資料に基づき 10 分程度で学習する。

(2) 発問例

○国分寺や国分尼寺は、どうして国府の近くに造られたのでしょうか。

○阿波国分尼寺には、どのような施設があったのでしょうか。

○丸瓦の模様は何を表したのでしょうか*。

○みなさんの住んでいる地域の近くには、どのような古代寺院跡があるのでしょうか。

* 軒丸瓦の模様(瓦当)は、蓮の花をデザインしたものです。古来、泥水の中から生じる蓮の花は、清浄と尊さのシンボルとされており、仏様がお座りになる台座(蓮華座)や寺院の屋根を飾る瓦にも蓮の花が用いられました。こうしたデザインが中国から日本に伝えられ、広まったものです。

(3) 「これは何でしょう。」

吉野川市の川島廃寺跡で出土した螺髪らぼつです。螺髪とは、悟りを開いた仏様の髪型で、髪の毛の一本一本が巻貝のように右巻きにカールしたものです。川島廃寺跡出土の螺髪は粘土製であり、塑像の仏像(如来形か)から剥離したものと考えられます。